仕事は進んだ。誰が判断したか。

判断デザイン®の実践シート　｜　第３層「仕事への実装」

上司が決めた対応を担当者が実行しても、仕事は進みます。
担当者が何を確かめ、どの対応を選べるかは、実際の判断を見て確かめます。

判断経験設計では、本人が事実を確かめ、選び、結果から判断を見直せるように、
必要な情報や時間、決められる範囲、周囲の支援を仕事の中に用意します。

直近の一件で、どこに手を入れられるか

場面	よくある状態		任せ方を変えるなら
決める前	上司が対応を決めて渡す。	›	本人が事実を確かめる時間を取る。
決める時	相談のたびに上司が決める。	›	上司は確認先を示し、本人が案を比べる。
決めた後	受け取る人の反応が戻らない。	›	誰に、何を、いつ確かめるかを決める。

思い当たる場面を一つ選び、同じ種類の次の仕事で任せ方を変えて試します。

例　原稿を確認担当へ渡す

社内のお知らせを準備します。どちらも、確認担当が13時に本文の確認を始められるよう、
原稿をどう渡すかを決める仕事です。通常の順番を変えるときは、上司に相談します。

原稿の状態	誰が何を確かめ、どう決めたか	確認担当の結果
１件目 本文が未完成。 正午にそろう。	上司が決めた 上司が本文の完成時刻を聞き、 正午にまとめて渡すと決めた。 担当者は指示を受けて送付した。	13時に 本文の確認を始めた。
２件目 本文は完成。 補足は15時に届く。	担当者が決めた 上司は確認先を紹介。本人は、補足が 後でも確認を始められると聞き、 本文を先に渡すことを決めた。	13時に確認を開始。 15時に補足を受け取り、 本文のやり直しはなかった。

次の仕事に残すこと

本人は、着手に要る資料と、分けて渡すと手戻りが出るかを先に聞く。
上司は、本人がまだ知らない確認先を紹介し、通常の範囲で渡し方を任せる。

次の仕事に、どの判断を残すか

仕事・案件　　試す日

次の一件で本人に任せる判断

相手の何を前に進めるか。何を選ぶか

始める前に用意する支援

確認先・使える時間・相談する境目

二件で実際に起きたことを比べる

結果の確認先・時点

案件・条件	実際に誰が決めたか 使った支援	本人が確かめた事実 選んだ理由	相手の仕事は どう進んだか
直近の一件	☐ 本人 ☐ 上司 ☐ 一緒		
任せ方を変えた一件	☐ 本人 ☐ 上司 ☐ 一緒		

次に使う判断の基準

次に任せる判断と、続ける支援